

アイデア創発①

通番	区分	テーマ	ねらい・概要	スライド	使用教材
1	I・II		課題設定に関する「アイデア創発」について6時間のプログラムを用意している。実際にワークを通してアイデアをだす方法を多く身につけ、実際にアイデア出しを体験する		

時間	スライド	ファシリテーション・生徒の活動・留意点など
10分	<p>アイデア創発プログラム</p> <p>1</p> <p>与えられた問題に答える力は「考えさせられる力」 「自分の問い」がなければ「考える力」を育てていくことはできない 学校は「考えないこと」を教えている</p> <p>創造の原点は「問い作り」にある</p> <p>「問い作り」とは、 ありたい姿と現実の「すき間」であり 「アイデア作り」と同じ</p>	<p>アイデアを発想するために、必要なトレーニングやマインドセットを学ぶことによって、質の高いアイデアが数多くできるようなプログラムを体験する</p> <p>普段、学校で行われている教科学習について、考える。あらかじめ「正答」が用意されていて、それを求めることが主な目標</p> <p>このような「具体」に絞り込む学びも大切ではあるが、自分で問いを見つけ、その解決方法考える学びがあることを理解させる。</p> <p>ここで必要になるものは普段の方向性とは逆で、「具体」から「抽象」に拡散した思考方法を身につける</p> <p>問い作りのワークとして、「アイデア創発のプログラム」に従って系統的に「アイデア」を発想する方法を学ぶ</p> <p>問いづくりの原理について考えてみる</p> <p>自分の立ち位置と目指すべき場所がはっきりすることにより、そのギャップ（課題）がはっきり見えてくる。</p>

<p>20分</p>	<p>過去に起きた問題＝想定内 未来に起きる問題＝想定外</p> <p>スポーツ、音楽で考える</p> <p>想定外のところに勝機がある</p> <p>知識</p> <p>これまで起きた課題に対して対応するもの</p> <p>創造力</p> <p>未来の課題に向かって戦う唯一の武器</p> <p><small>地球上で生き延びてきたのは強いものばかりではない。変化できたもの。この変化は多様な類型が「創造力」です。創造力は元々誰もが持っている力です。新しい想定で思考トレーニング。そして失敗を当たり前に考えるマインドセットを持つことで引き伸ばすことができるようになります。</small></p>	<p>これから起きる未来の問題を解決していくには、これまで起きたことのない想定外の問題を解決していく力が求められる。この力は過去のことを学ぶ「知識」ではなく、新たなものを創っていく「創造力」が大切になる</p> <p>歴史的に振り返ってみると生き延びてきた生物は「強い」ものではない、変化に対応できたもの。人間が変化に対応していくために最も重要な力が「創造力」</p>
<p>30分</p>	<p>過去に起きたことを研究している間に世界は変わってしまう</p> <p>正解(知識)の価値 ↓ 問い(創造)の価値 ↑</p> <p>「正解」をさがす ↓ 「問題」をさがす</p> <p>未来創造</p> <p>「未来」のことは何が起きるか分からないが だったら自分で「創造」すれば良い</p> <p>自分で 考えていくしかない</p> <p>チ+レンジ「See with naked eye」 できるだけ詳しくタンポポを描いてください</p>	<p>「未来創造」の授業ではこの「創造力」を伸長することに焦点を当てた学習プログラムであることを理解させる</p> <p>「創造力」を構成する3つのカテゴリーの中のひとつが、「課題発見力」課題を発見するために、日常生活の中から「課題」を探し、アイデアを創発する方法について学ぶ</p> <p>基本は日常生活の中から常に常識に流されることなく「なぜ」という気持ちで批判的に物事を観察して、多面的なものを見方を身につけること</p> <p>ワーク</p> <p>「たんぽぽ」をできるだけ詳しく描いてみる</p> <p>普段のイメージで陸上部分の花や葉を中心に描く人が多い。しかしタンポポの花が咲くのは一年間の中で2週間ほど。実際は大きな根が地中に張りめぐられている。</p>

<p>40 分</p>	 <p>「エウレカ」 新たな発想はどこから生まれるか？</p> <p>処理 毎秒10-50 ビット</p> <p>外界から の感覚 毎秒100万 ビット</p> <p>無意識の領域で の化学反応 →新たな発想</p> <p>無意識が処理 心が生まれる (5万年昔 覚悟を持つ)</p> <p>異能vationプログラムとは</p> <p>異能vationプログラムは、ICT分野において破壊的な地球規模の産物創造を生み出すために、大いなる可能性がある奇想天外でアブドシヤスな技術課題への挑戦を支援します。</p> <p>異能vationプログラムとは</p> <p>既存の常識にとらわれない独創的な「変わった事」をなす、実行する人（通称「へんな人」）の、「なにをいぜいのところから、イチを生む」失敗を恐れない異質な挑戦を支援するとともに、そうした方々が交流し、賛助と異能が出が合うことで、さらなる独創的な発想が生まれるような環境を提供します。</p> <p>異能vationプログラムとは</p> <p>人類史上、既存の枠にとらわれない破壊的なイノベーションを起こしてきたのは、こうした奇想天外でアブドシヤスな技術課題に挑戦する「へんな人」でした。異能vation プログラムは、こうした人たちがのびやかに活躍することが日本の新たな未来を創る、と信じて取り組んでいるものです。</p> <p>ジェネレーションアワード部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとした、けれども誰も思いついたことのないような面白いアイデア ・自分でも面白い使い方が分らないけれど、こだわりのあった技術 ・自らが発見した実現したい課題などを表影します。 <p>あなたの日ごろのちょっとしたアイデアも、こだわりの技術も、思いもよらないような使い方をしてくる人や企業が出現することにより、世界を変える一歩を生むかもしれません。</p>	<p>インプットの情報は視覚からのものがその大部分を占める 脳が処理できる情報量は圧倒的に少ない。 大部分のものが「無意識の領域」に落ちていく</p> <p>実際に自分でアイデアを出すワークを行う</p> <p>アイデア出しの評価は発想したアイデアの数（流暢性）、他の人が気づきづらい独創的なアイデアであるか（独創性）現実的に使えるアイデアとなるように工夫や「練り」が加えられているか（現実性）などの項目で見ていく。</p> <p>外部評価を受けるために、出てきたアイデアは全て、本校がメンバーに加わっている「異能 vation ネットワーク」のアイデアコンテストに応募する</p> <p>「異能 vation」プログラムについて紹介する</p> <p>アイデアの出し方について、次の時間から具体的に学ぶ</p>
<p>45 分</p>		